

めぐみイエス・キリスト教会

2020年12月27日(日)第四主日礼拝
週報「通算第538号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌75「神の御子は」	p. 102
【交読文】	No.2詩篇第8篇	p. 879
【賛美Ⅱ】	新聖歌78「荒野の果てに」	p. 106
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	新聖歌77「きよしこの夜」	p. 105
【聖書朗読】	ルカの福音書2章21節～35節(2017新約p. 111上段)	
【礼拝説教】	《エルサレムのシメオン》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

◎本日の聖書箇所【ルカの福音書2章21節～35節】

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子の名はイエスとつけられた。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

2:22 そして、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子をエルサレムに連れて行った。

2:23 それは、主の律法に「最初に胎を開く男子はみな、主のために聖別された者と呼ばれる」と書いてあるとおり、幼子を主に献げるためであった。

2:24 また、主の律法に「山鳩一つがい、あるいは家鳩のひな二羽」と言われていることにしたがって、いけにえを献げるためであった。

2:25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められるのを待ち望んでいた。また、聖霊が彼の上におられた。

2:26 そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、聖霊によって告げられていた。

2:27 シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、律法の慣習を守るために、両親が幼子イエスを連れて入って来た。

2:28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。

2:29 「主よ。今こそあなたは、お言葉どおり、しもべを安らかに去らせて下さいます。

2:30 私の目があなたの御救いを見たからです。

2:31 あなたが万民の前に備えられた救いを。

2:32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」

2:33 父と母は、幼子について語られる様々なことに驚いた。

2:34 シメオンは両親を祝福し、母マリアに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人々が倒れたり立ち上がったたりするために定められ、また、人々の反対にあうしるしとして定められています。

2:35 あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くことになります。それは多くの人の心のうちの思いが、あらわになるためです。」

●ポイント1. 「シメオン」とは？

※創世記29章33節「レアが産んだヤコブの第二男子」(旧約p.52下段)

29:33 彼女は再び身ごもって男の子を産み、「主は私が嫌われているのを聞いて、この子も私に授けて下さった」と言って、その子をシメオンと名づけた。※伝承では彼はずるく、荒々しく、残酷であると伝えられている。

●ポイント2. 何が、シメオンの人生を支えてきたのか？

※詩篇119篇105節～107節「み言葉の賛歌の詩篇」(旧約p.1065下段)

105 あなたのみ言葉は私の足のともしび私の道の光です。

106 私は誓いまたそれを果たします。あなたの義の定めを守る事を。

107 私はひどく苦しんでいます。主よみ言葉のとおり私を生かして下さい。

●ポイント3. 主イエス様の私たちへの約束とは？

※ヨハネの福音書14章15節～27節「最後の晩餐」(新約p.214下段右側)

◎先週のメッセージの概要【クリスマスの真実】

《キリスト教は事実の上に成り立っています。イエス・キリストと言う実際に歴史上において存在した人物を中心とし、おもに主イエス様と私たちの関係を重視した真理、教えでもあるのです。今から2,000年以上も前に、ベツレヘムの町において、本当にお生まれになったと言うことです。

さて、住民登録が行なわれ、ヨセフは身重になったマリアを連れてベツレヘムにやって来ました。実はヨセフは、ここでのマリアの出産をまったく考えてはいなかったのです。住民登録を終えて、ナザレに戻る予定でしたし、またもし時間がかかった場合には、従姉妹エリサベツが住んでいますエンカレムでのマリアの出産を考えていたのではないのでしょうか。

しかし、『ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて』しまったのです。当時、ダビデの子孫は大人数で、順番待ちとなったのです。また「宿屋には彼らのいる場所がなかった」とは、宿泊を断られたのではなく、14歳の若い女性がお産する場所が、宿にはなかったと言うことです。

その為、宿の女主人が洞窟の家畜小屋を用意してくれたのです。そしてそれが、「喜びの訪れ」を受け取った、羊飼いたちへのしるしとなります。羊飼いたちが、見聞きしたことを報告した時です。「聞いた人たちはみな驚いた」のです。ヨセフとマリア以外に人がいたことの証しです。

さてこの後、律法に従ってマリアは清めの期間を過ごします。この7日間の期間中においても、まだ東方の三博士はやって来ません。8日目にエルサレムにおいて幼子イエスの割礼を授けてもらい、おそらくエンカレムのエリサベツの所に挨拶に行っただと思われれます。そしてその後、彼らは再びベツレヘムに戻り、住民登録を済ませたと考えられます。その頃に、東方の三博士が、エルサレムの宮殿にやって来ることになるのです。その時、ヨセフとマリアと幼子は、ベツレヘムの家にいるのです。主イエス・キリストは本当に生まれて下さいました。神様が人となってこの世界に訪れて下さった、その栄えある歴史的な日が、クリスマスなのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は2021年1月10日(日)教会において行ないます。2021年1月3日(日)礼拝と、1月6日(水)聖書勉強会と祈り会は、お休みします。